

乳幼児連れの人々の移動の現状とその支援に関する基礎的研究
—保育園利用者を対象として—

福岡大学工学部 学生会員 ○岡 泰佑
福岡大学工学部 正 会 員 辰巳 浩
福岡大学工学部 正 会 員 堤 香代子

1. はじめに

近年、わが国では少子化問題が深刻化しており、子育て環境の向上が求められている。このことは、交通分野についても例外ではなく、乳幼児連れの人々が快適に移動できる交通環境を創出することは重要な課題のひとつであるといえる。

本テーマに関する既往研究についてみると、その実績は非常に乏しい。また、そのほとんどは、関東・関西の大都市圏を調査対象地域としたものであり、公共交通利用を前提としたものとなっている。

そこで本研究は、こうした大都市圏に比してマイカー依存度が高い地方都市を対象とし、アンケート調査を実施することにより、乳幼児連れの人々の移動実態とその意識を把握することを目的とする。なお、本稿では保育園利用者を調査対象としており、すなわち、仕事を持つ人々を分析対象としている。

2. 調査概要

アンケート調査は、福岡市中央区、西区、城南区の保育園 9 か所を対象とし、平成 22 年 11 月に実施した。調査票の配布・回収は保育園の協力により保護者への連絡帳に挟み込むことで行った。配布部数は 870 部であり、回収部数は 452 部、回収率 52.0%であった。調査項目は表 1 に示すとおりである。

表 1 アンケート調査項目

個人属性		性別・年齢・就業・住まい・家族構成・最寄り駅の有無・食材の宅配利用状況・自家用車の有無
外出先別の交通状況	買い物に行く場合	利用スーパー名・スーパーまでの距離・スーパーの交通手段
	保育園の送迎の場合	保育園までの距離・保育園までの交通手段・保育園の送迎時間
	レジャーの場合	主な交通手段
	病院へ行く場合	主な交通手段
運転状況・満足度		運転中気をつけること・スーパーの駐車場利用満足度・駐車後の利用満足度

3. 調査結果

(1) 目的別の交通手段

図 1 は、主な交通手段を目的別に示したものである。いずれの目的においても乳幼児連れの人々の半数以上はマイカーにより移動しており、公共交通の利用割合は低いことがわかる。ここで、レジャーの場合は同乗の割合が増加しているが、保育園利用者のほとんどが女性であり、レジャー際には夫の運転に同乗しているためであるといえる。また、買い物や保育園の送迎の場合は、レジャーや通院に比して自転車・徒歩を交通手段とする傾向が強いことがわかる。

図 2 は、最寄り駅までの距離の状況について示したものである。また、図 3 は最寄り駅までの距離が 1km 以内の人々の主な交通手段について示したものである。これらの図より、地方都市では鉄道の利用が可能な環境であっても、乳幼児連れの人々の公共交通の利用割合は低いことがわかる。

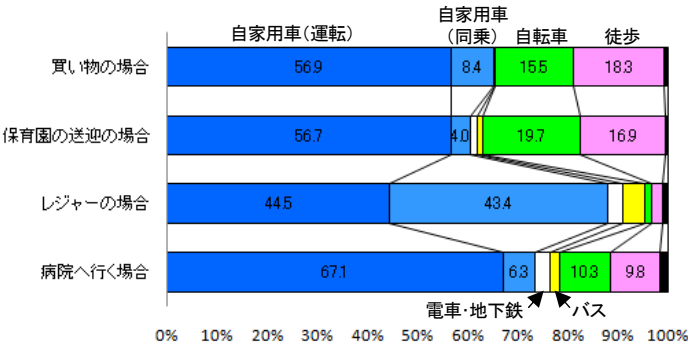


図 1 目的別の交通手段

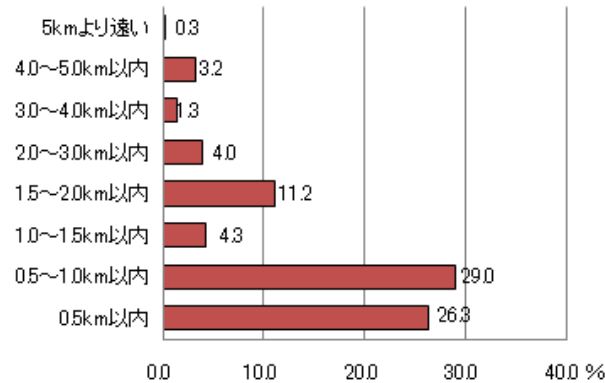


図 2 最寄り駅までの距離

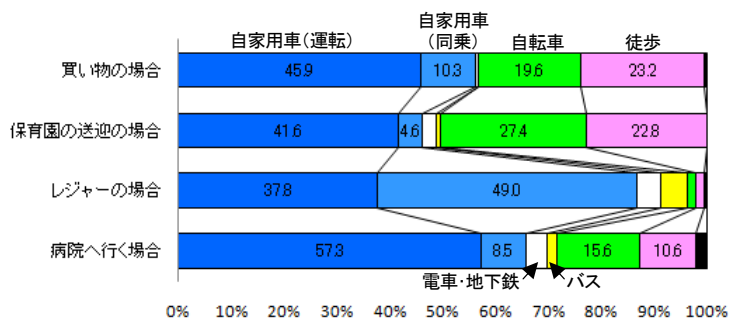


図3 目的別の交通手段(最寄り駅が1km以内の人のみ)

(2) 買い物に行く際の駐車に関する満足度

次に、買い物に行く際の交通手段がマイカーの人のみを抽出し、駐車とその後の移動に関する満足度について分析した。図4は、マイカーをスーパーに駐車する際の満足度を示している。図より、不満・やや不満の割合は2割程度であることがわかる。また、図5は駐車後の移動の際の満足度を示している。図より、全体的に不満・やや不満の割合は低いが、「雨天時の駐車場と店の間の移動の快適性」の満足度が他と比べて低い結果となった。

このように、買い物の際の駐車に関する不満はさほど高くない結果となっているが、このことは逆に駐車に関する満足度の比較的高いスーパーを選択しているとも考えられる。

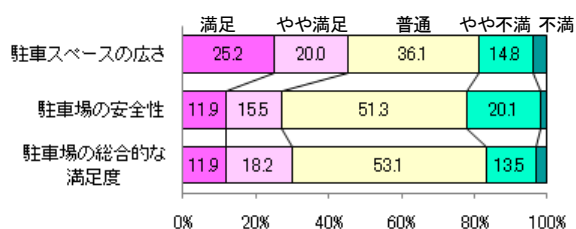


図4 駐車における満足度

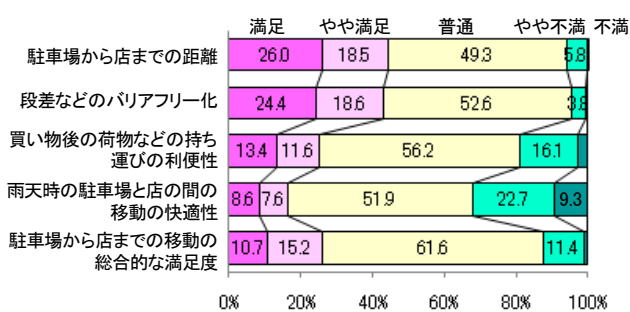


図5 駐車後の満足度

(3) 店舗別の利用満足度

図6は店舗別の駐車後の利用満足度について示したものである。図から、店舗により満足度が異なり、特に「雨天時の駐車場と店の間の移動の快適性」についてはスーパーCの満足度が低くなっていることがわかる。その理由として、スーパーCは大型スーパーであり、駐車場が道路を挟んだ場所に位置することから、駐車場の設置位置に要因があると考えられる。

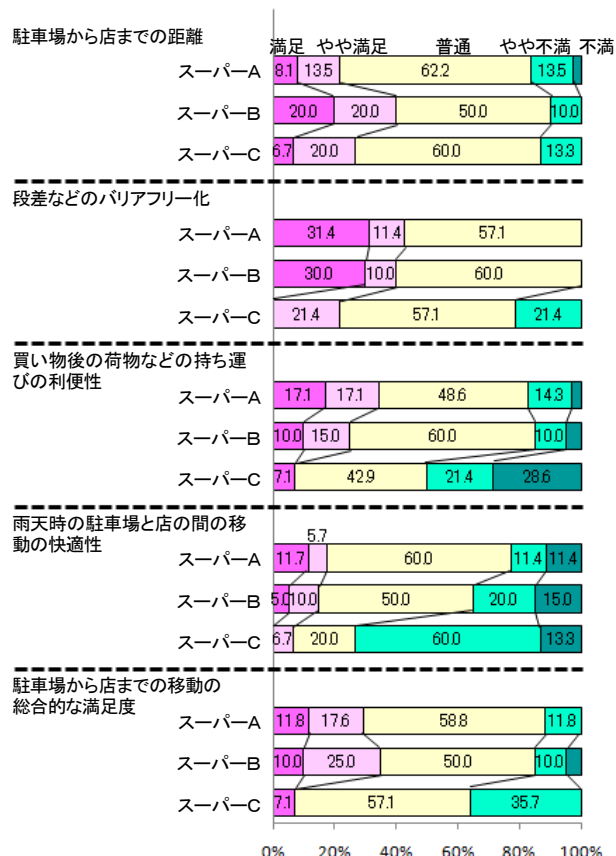


図6 スーパー別の駐車後の満足度

4. まとめ

本研究では、保育園利用者を対象にアンケート調査を実施し、乳幼児連れの移動実態とその意識について分析した。その結果、乳幼児連れの人々は公共交通を利用できる環境であってもマイカーに依存する傾向が強いことがわかった。また、マイカーで買い物に行く際の駐車に関する満足度については、満足度は比較的高いものの、雨天時の移動の快適性には改善の余地があることがわかった。このことより、乳幼児連れの人々の支援策として、屋根付きの駐車場を整備することが望ましいといえ、屋根が設けられない場合でも、店舗入口付近に身障者用駐車スペースと同様、乳幼児連れ優先駐車スペースを設けるなどの方策が考えられるであろう。

参考文献

- 1) 小塚勝紀, 新崎淳史, 波床正敏: 子連れ移動者の視点からみた交通バリアフリーの課題抽出, 第28巻, 2003.
- 2) 新福綾乃, 十代田朗, 津々見崇: 乳幼児を伴う外出行動の実態に関する研究 — 東京・自由が丘及び代官山におけるケーススタディー, 第62巻, 第44号, pp367-372, 2009
- 3) 木村祥法, 石田千早, 波床正敏: 堺市中心市街地周辺の子連れの行動について, 第61巻, p117, 2006
- 4) 大森宣暁, 谷口綾子, 真鍋陸太郎, 寺内義典: 子育て中の母親の外出行動とバリア, 第39巻, pp105-108, 2009
- 5) 柳田穰, 谷口綾子, 石田東生: 公共交通機関の子供連れ利用における心理的バリアの軽減を目的とした説得的コミュニケーションによる態度変容効果分析, 第41巻, 2010
- 6) 波床正敏, 小塚勝紀: バリアフリー施設が子連れトリップの駅選択に与える影響の分析, 第31巻, p96, 2005